

本日のアジェンダ

Web5.0推進協議会は、革新的な技術（特許取得済み）を社会適用し、我が国の産業構造を根底から変革し、世界に新たなビジネスモデルを提示することをご提案します。

- 協議会のビジョンと経済規模
- 最新のAI技術とグローバルの動向
- アメリカ、欧州の動向を踏まえた考察
- 日本の勝ち筋
- まとめ

本日お伝えしたい事

最新のAIトレンドやグローバルの動向により、
AIが人間の経済圏で共存する時代は到来する

桁違いの投資規模・マネタイズが秀逸なUSと真向勝負せず、EUのようにルールを定めて、産学官連携によるAIとのコミュニティ実証プロジェクトを実行する

日本の勝ち筋（製造業、ロボティクス、メガトロニクス）とAI技術を融合し、世界に先駆けて安全にデータ活用するAI流通プラットフォームを確立する

Vision：世界を照らすAI流通プラットフォームの実現

世界で
通用する
構想

- ・ 国内有数の企業との連携により、未来に向けた実証を進めていく
- ・ 世界のThought Leaderや大学との連携により、世界からの認知度向上を図る

「AI同士が力を合わせ、互いに助け合う」
という革新的なイノベーションで

**未来社会の基盤を築き、
人類の新たな可能性を
解き放つ**

- ・ AIの浸透・普及は加速度的に進行中
- ・ 高度な機密情報を含む莫大なデータをAIが活用するためには、分散型のインフラ上(Web3.0)で、AI同士が自律的に取引を行うプラットフォームが必須

高まり
続ける
AIニーズ

- ・ 国内特許を3件取得済み・1件申請中
- ・ AI（デジタルヒューマンと呼ばれるエージェント）を、セキュリティを担保しながら流通させる仕組みを創出

強固な
流通基盤

マルチバース経済圏

現実空間の全てのビジネスモデルは、
エージェント（AI）および
Web2.0とWeb3.0の組み合わせで再現

“
仮に地球の経済圏
（デジタルツイン）を再現できる
と経済規模は1京円以上

“
自律的かつ多様なエージェントが経済
圏に加わるにより、地球をこえる
経済圏が登場する可能性も大きい（エ
ージェント同士の経済圏）

多様なエージェントによる
独自のメタバース群（＝市場）が登場、
これまでにない世界へ

“
FIATに加えて、各種トークンが
流通（UT,ST,SC）及びNFT

“
人がAIを雇用、AIがAIを雇用する
時代へ

現実世界とバーチャルの世界を活用した
これまでにない多様な経済モデルの登場

近未来の魅力的なデジタル経済圏の創造と
自律的AIのリスクを制御しつつ、
社会課題の解決を目指す

コンセプトイメージ

自律型
エージェントとは

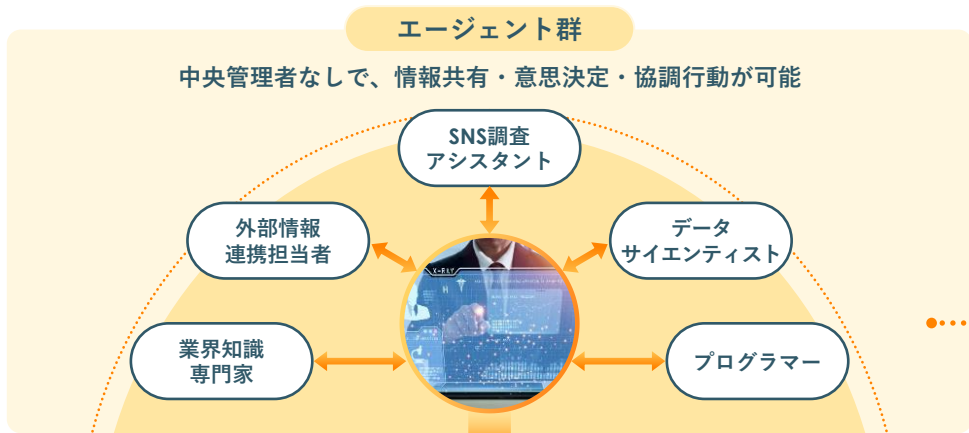
ユーザーの課題を判断し、自律的に解決できるAI（エージェント）

22世紀の未来からやってきたネコ型ロボットのように、夢を叶えてくれる存在

近未来

自律型AIエージェントの集合体（コミュニティ）の実現。

AI同士が自律的にコミュニケーションを取り、日本のデータ（暗黙知）を牽引する



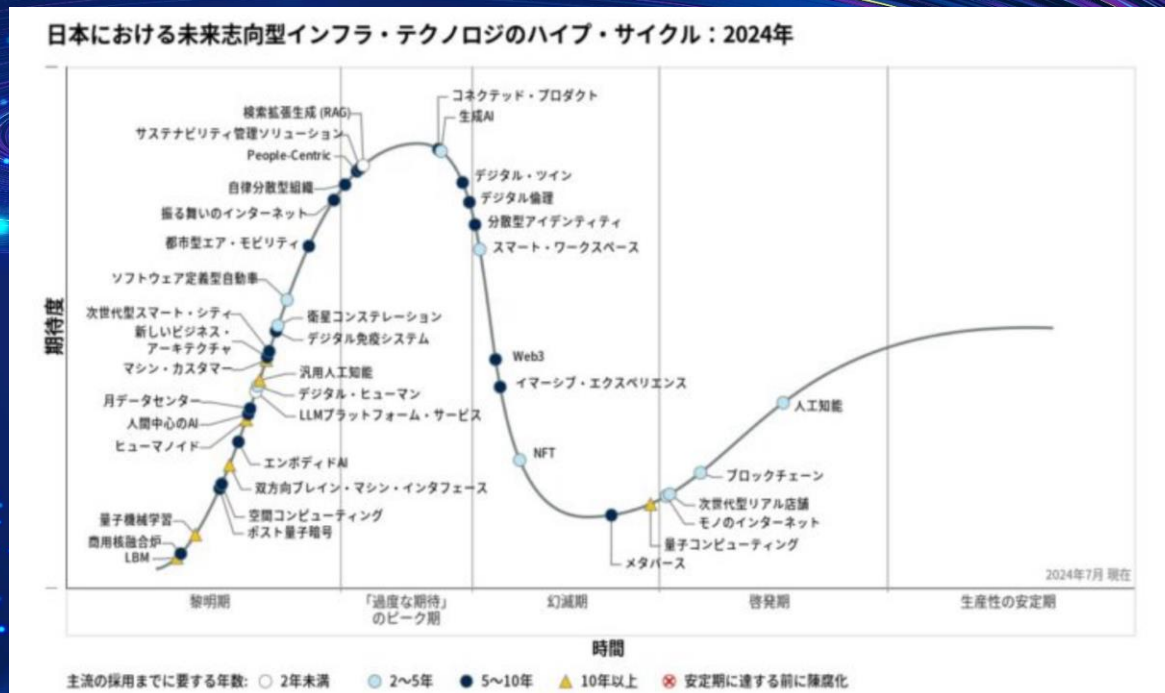
利用者の日常生活をリアルタイムで手助け

Topics

- AIは音声情報だけでなく、視覚情報や感情情報も活用可能に（マルチモーダル化）
- デジタルヒューマンを加えることでAIを具現化。さらにロボティクスの要素を加えることで、利便性を向上させる
- まずは高齢者向けエージェントの提供を目指す。既に東京大学や大手企業と提携交渉を進めながら、特定保険会社とのプロジェクト実現を協議中

産業革命クラスの変化が起こっている

ガートナー ジャパンは2024年8月7日、「日本における未来志向型インフラ・テクノロジーのハイプ・サイクル」を発表した。今回のレポートでは、新たにRAGとマシンカスタマー、ヒューマノイド、エンボディドAI、Large Behavior Model (LBM：大規模振る舞いモデル) という5つの新たな技術が追加された。



マシンカスタマー（AIが顧客）の時代には自立分散型の取引が必須

サム・アルトマン氏、すなわちOpenAIのCEOが立ち上げたワールドコインプロジェクトは、非常に野心的な試みである。このプロジェクトの核心は、世界中の誰もが利用できるユニバーサルベーシックインカム（UBI）の実現と、AI時代における人間とAIの識別という二つの大きな課題解決を目指しています。



既に400億円程度を調達
マシンカスタマーの登場も視野に入れていると想定

サムアルトマンも自律分散型の社会の通貨発行権（＝リターン）を狙っているのでは？
（過去の、メタのマークザッカーバーグのLibra構想も視野に入れている？）

AI時代のデータ活用を支える5つの柱

既存リソース活用

Dataエコシステム構築

AIエコシステム構築

1

IT人材の
豊富なドメインナレッジ

豊富な知見で新たなビジネスモデルを構築し、顧客のAI活用をサポート（省人化とイノベーション）

2

高付加価値な
データとAIモデル

高い品質のデータを収集し、政府とも協力しながらAIの育成に貢献

3

Web3型の
ビジネススキーム

研究開発を通じてハイブリッドクラウドを実現し、パーソナライズを加速

4

高度技術のAI化



博士クラスの専門家が持つ知識や知見を、AIへ移植（ハイブリットクラウド）

5

物理ロボットへの
AI搭載

AI Agentの能力を物理ロボットへ付与し、人手不足を解消（エッジ処理=ハイブリットクラウド）

ハイブリットデータ × AI Agent × パーソナライズ の力で、新しい時代を切り拓く
クラウド
(社会課題の解決)

まとめ

1

共走

国際協力や世界的な投資呼び込みを牽引する実証プロジェクト確立

2

強壮

真のハイブリッド・データ・クラウド

3

共創

政府ご協力のもとで、インキュベーション&エコシステム実現

AIとビッグデータ活用が
もっと身近で当たり前になる世界を実現します。